

地理歴史・公民科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 入試等に向けて教科書の内容を網羅的に取り扱い、知識を覚えることを中心に授業が行われていて、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていない。
- 授業において、プリントの空欄に新出語句を埋めさせることや、いわゆる一問一答形式の発問をすることが多い。
- 各科目、各単元での育成をめざす資質・能力があまり具体的にイメージできていない。特に「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価について理解が深まっていない。

教科書の範囲、全部やらなきゃ！



江戸時代の最期の将軍は誰？



主体的に学習に取り組む態度って、どんなところをどうやって見取るんだろう？



上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 生徒が自分の考えを答えるような発問をしたり、自分の考えをまとめるようなプリントの工夫をしたりすること。
- 生徒が学んだことを生活の中で生かすことができるようにすること。
- 単元の集大成として生徒が主体的に課題の解決に取り組むようなパフォーマンス課題を取り入れてみること。

今も続いている地域紛争や戦争には、こういった背景があるのだろうか？



法の意義や役割って何？



江戸時代はなぜ終わったのか？



大きな町の近くに大きな河川があるのはなぜだろう？



課題解決に向けた具体的な実践例

●課題解決に向けて教科として話し合ったこと

- ・生徒の「主体性」を引き出すために、パフォーマンス課題等を使って授業を実施するなら、
 どのような点に留意すればいいのだろうか。

単元の目標設定に際して、育成をめざす「見方・考え方」を「本質的な問い」に対応した「永続的理解」の形で明確化する。そして、パフォーマンス課題に取り組む過程を通じて目標とする資質・能力が適切に身に付いたかを評価する。

「本質的な問い」

- ・「～とは何か？」と概念理解を尋ねたり、「～するには、どうすればよいか？」と構想を尋ねたりする問い。
- ・個別の知識の再生にとどまらず、「見方・考え方」を働かせざるを得ない問い。

「永続的理解」

- ・大人になって個別事象の知識やスキルの詳細を忘れ去ったとしても、なお残っているべきであるような重要な理解。
- ・学問の中心にあり、新しい状況に転移可能なもので、生活場面など様々な状況において価値をもつような理解。

「パフォーマンス課題」

- ・さまざまな知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題。

【実践例 日本史】 単元 「幕藩体制の確立」

○単元における「本質的な問い」

戦国時代から江戸時代にかけて支配体制はどのような要因で変化をしていくのか。どうすれば、安定的な社会をつくることができるか。

○パフォーマンス課題例

あなたは4代将軍家綱の代にタイムスリップしてその時代の老中と入れ替わりました。江戸幕府による支配体制が安定して長く続いていくためにどのような予算を考えますか？家光の時代までに起こった出来事を予算編成の根拠にして作成してください。また、その際には21世紀で起こっている類似する出来事を例にしながら他の老中が納得するような説明をしてください。

●パフォーマンス課題の実践

□単元の指導と評価の計画

- ・科目 「倫理」
- ・単元 「日本の仏教思想」
- ・単元の目標

【知識・技能】

日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けているとともに、仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料を収集し、適切に活用できる技能を身に付ける。

【思考・判断・表現】

日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現できるようになる。

【主体的に学習に取り組む態度】

日本において独自の発展をした仏教の特質を意欲的に探究しようとする態度を養う。

・単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けているとともに、仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料を収集し、適切に活用できる。	日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。	日本において独自の発展をした仏教の特質を意欲的に探究しようとしている。

・単元の指導と評価の計画

○…形成的評価（記録に残す評価） ◎…総括的評価（指導に生かす評価）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準 (評価方法)
		a	b	c	
第1時	○仏教の受容 外来宗教である仏教の移入と展開について学習し、神仏習合した宗教の在り方を考える。	◎			【a】日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けている。 [ペーパーテスト]
第2時	○仏教の日本的展開－鎌倉仏教 鎌倉新仏教の宗教思想の特徴を理解する。 親鸞の「自然法爾」や道元の「修証一等」に共通する、日本人の人生態度について考える。	◎	○		【a】日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けている。仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料をWebページ等から収集し活用している。 [ペーパーテスト] 【b】日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 [ワークシート]
第3時 (本時)	○仏教と日本文化 仏教的な伝統文化や美意識の形成を理解し、自らの考えを持つようになる。		◎	○	【b】仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する内容を理解し、適切に説明できる。 [ワークシート] 【c】日本において独自の発展をした仏教の特質を意欲的に探究しようとしている。 [ワークシート]

・本時の目標

「仏教は日本人にどんな美意識をもたらしたか」について考察し、自らの考えを持つ。

・本時（第3時）の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業の振り返りと本時の目標の確認をする。 ・仏教思想の受容と日本人の美意識について、仏教が日本の文化や文芸の形成に大きな影響を与えてきたことを理解する。 	ワークシートを使って、いろは歌、徒然草などの作品にふれ、日本人の美意識を具体的にイメージできるようにする。	
展開 30分	<p>【パフォーマンス課題】 「平家物語を読んで、鑑賞文を書こう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『平家物語』の冒頭を読み、仏教思想に基づく日本的な美意識がどのように表現されているかを解説する鑑賞文を作成する。 	<p>感想文と鑑賞文の違いをはっきりと理解させる。</p> <p>各自、クロームブックからファイルにアクセスし鑑賞文を入力させる。</p>	<p>【b】仏教的な用語や世界観について説明し、仏教的な美意識についての解説もできている。[ワークシート]</p> <p>【c】鑑賞文の作成に、粘り強く取り組んでいる。[ワークシート]</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の振り返りを行う。 ・他の生徒の鑑賞文を読み、自分の鑑賞文との合致点、相違点などを考える。 	鑑賞文をクラス全体で共有できるようにする。	

ポイント

仏教思想の単元のまとめとして、仏教思想が日本の文化・芸術に大きな影響をもたらしたことを学びます。その上で、その知識を活用して、他教科で既習の古典作品（『平家物語』冒頭）の鑑賞文（×感想文、×訳文）を書くことに挑戦します。仏教的な見方・考え方を身につければ、身の周りにある日本の文化・芸術の中にかくれた仏教思想に気付くなど鑑賞力が深まることを体験的に分かってほしいと考えて、今回のパフォーマンス課題を設定しました。

ポイント

今回のパフォーマンス課題は、平家物語のどの部分に仏教思想が表れているのかを考え、判断し、それを鑑賞文と言う形で表現することにより、「思考・判断・表現」の視点について評価しました。（知識を覚えるのではなく活用する力、物の見方・考え方を習得し、それを適用する力を育てる。）

□生徒による成果物

* 「おおむね満足できる」状況（B）

「シンプルな鐘の音も儂く散っていくような響きで美しい。沙羅双樹の花の色のように人間もいつか色褪せる。長く続かず、いつかは代わり、消え果てる。いつか消え果てるのが今日であっただけで、塵のように儂く散っていく。夢の中のようだといっている。

4行全てに形あるものはいつかは無くなってしまおうという仏教思想が組み込まれており、その中にも春の夜の夢のごとしのような、儂くも美しいといった無常観なども見られ、どんなものもいつかは消えてしまうのだから、平家も滅んでしまったという筆者の考えが見られる。」

* 「十分満足できる」状況（A）

「まず、最初の2文では、平家の没落を仏教の考え方に例えて話している。これは祇園精舎などの、仏教用語を使っていることから見られる。そして、残りの文では、最初に栄華は長く続かないことを書いて、その後の文で、それを風や夢のように移ろいやすいもので例えている。そのように例えた理由は無常観という美意識から来ている。つまり作者は、滅びゆく平家にも美しさを感じていた。

平家が滅んでいくとき静かに成仏してもらえるように鐘を鳴らし、たとえきれいな花でもいつかは枯れる勢いがあってもそのままだと衰退していくことを表し、だんだん衰退していく姿を見て儂さと同情を感じる。だけど枯れた後にもどこか美しさを感じ滅んでしまった平家にもどこか美しさは残ると表現されている。」

□「観点別学習状況の評価の判断基準」の設定

判断基準	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）
評価規準	仏教的な用語や世界観について理解し、説明することができるうえに、仏教的な美意識についての解説もできている。	仏教的な用語や世界観について理解し、説明することができる。
【b】		



「努力を要する」状況（C）と判断された生徒に対する指導のてだて

机間指導等を行い、他の生徒の作品や活動を参考にし、どのようにすればよいかを解決できるよう促す。

仏教思想に関する用語（諸行無常、無常観等）をよく理解せず、使いこなせないまま書いた鑑賞文もありましたが、平氏の運命と諸行無常や無常観を結び付けることができたり、さらに滅びゆくことに美しさや愛おしさを感じる感性（仏教的な美意識）との関連にまで言及できているものがあつたりして、主体的に取り組んでいる様子がうかがえました。



□パフォーマンス課題を振り返って

今回のパフォーマンス課題では、解釈したり関連付けしたりしようとしているかといったことも見取ることができるのでは！



鑑賞文提出後に、倫理で学んだ知識をもとに作品を鑑賞するという課題をしてみてもう一度どうだったかを生徒自身に戻ってもらう（倫理を学ぶ意味にかかわるメタな問いをする）ことで、学んだ知識をどのように使えるかを考えさせることもできるのでは。またそれを「主体的に学習に取り組む態度」として見取れるのでは！

鑑賞文提出後に、日常に潜む仏教的美意識を探して報告するという課題を与えて、日常生活で見聞きすることの中に、少しでも仏教的美意識との関連が見い出せそうなものがあれば、その理由（仮説でOK）とともに提出させることで、探究的態度を育てたり、育ったかどうかを見取ったりすることができるのでは！

一枚ポートフォリオ（OPP）や振り返りシートを活用

The image shows two educational forms. The top one is a Portfolio (OPP) for a lesson on South Asia. It includes sections for learning objectives, learning activities, and reflection. The bottom one is a Reflection Sheet (振り返りワークシート) with a table for recording learning progress and a section for reflection.

年	組	番	名前	日付	年	月	日

教科・科目 () 単元テーマ ()

はじめ

おわり

この単元の学習ではじめて知ったことや、面白いと思ったことをまとめよう。

この単元の学習で、わからなかったこと、これから調べたいことをまとめよう。その後、解決できたら右側の欄にメモしよう。

この単元でどのような資質・能力を身につけさせたいか（永続的理解）、もっと具体的に明確にしておけば、「問い」や「ふりかえり」等の効果的な設定ができたのではないだろうか！

生徒の成果物や実践の振り返りから 考えられること

育成すべき資質・能力を明確にすることが、生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、より主体的に課題解決に取り組むパフォーマンス課題を工夫することにつながり、思考力・判断力・表現力等とともに主体的に学習に取り組む態度を育み、その状況を見取ることができるのではないか。

ポイント

生徒の「主体性」を引き出すために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりとして、以下の点に留意しながら「単元における指導と評価の計画」を作成する。

- 単元における「永続的理解」を明確にし、「本質的な問い」を設定する。
- 単元の指導の計画において、「永続的理解」へと向かって学びがすすんでいく構造にし、「永続的理解」に到達しているかどうかを問うことをめざす。（学びの舞台の設定）
- 学びの舞台において、パフォーマンス課題は、「思考力・判断力・表現力等」が身についたかどうかを見取することを中心に据え、設定する。
- 「主体的に学習に取り組む態度」をパフォーマンス課題によって見取る場合、以下のような機会や要素が組み込まれるよう工夫する。
 - ・「最後の感想ではなく形成的な自己評価という意味での振り返りとそれをもとにした自己修正（自己調整）の機会」
 - ・「その気になったら自らもっともっと深めたり広げたりできる要素」
 - ・「新しく獲得した枠組み（社会科の概念）を用いて世の中を自分なりに捉える（理解を再構成する）ような機会」
 - ・「継続的な努力を必要とする機会」